

平成23年5月27日

各加盟団体理事長 殿
各ブロック協会理事長 殿
各加盟団体競技運営担当者殿
各加盟団体審判長 殿
日本リーグ競技担当者 殿

(財)日本ハンドボール協会
競技本部長
常務理事 江成元伸
(公印省略)

平成23年度競技運営に関する通達(ボールの空気圧について)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本協会の競技運営に格別のご尽力を賜りましてありがとうございます。

さて、平成23年4月1日付けで、競技運営に関する通知を出しましたが、ボールの空気圧に関して、一部解釈を変更させていただきます。標記事項につき、下記の通り通知しますので、関係方面に周知徹底されますよう諸連絡をお願い申し上げます。

最後になりましたが、東日本大震災に伴い、各地で復興に向けご尽力いただいていると思います。健康にご留意され、ハンドボール競技が適正に実施できるよう、関係各位のご配慮をお願い申し上げます。

記

1 ボールの空気圧について

ボールは下記の空気圧を**基準**とする。試合開始前に、競技委員会委員長、マッチバイザー、審判員によって**基準**に沿って、適正な空気圧を決定する。

ボールの空気圧を下記の通りとする。

モルテン社製ボール

| | | | |
|--------|----------------|----|------------------|
| アセンテック | ヌエバX5000 | | 170hpa (すべての種別) |
| | ヌエバX4000、X3600 | 成年 | 320±20hPa |
| | 同上 | 少年 | 300±20hPa (変更なし) |

ミカサ社製ボール

| | | |
|----------|----|------------------|
| 新球、現球ともに | 成年 | 300±20hPa (変更なし) |
| | 少年 | 300±20hPa (変更なし) |

2 マッチバイザーの任務、平成23年度版について

表記変更に伴い、一部マッチバイザーの任務、平成23年度版の下記の項目を変更した。

「5-4 大会使用球は、(財)日本ハンドボール協会、もしくはIHFの検定球を使用する。ボールの外周、重さは競技規則通りとし、IHFでは定めはないが、本協会ではボールの空気圧を成年は 320 ± 20 hPa、少年は 300 ± 20 hPa を基準とする。メーカーのボールによっては、全種別とも 170 hPa を基準とする。夏季はボールが膨張し、測定したあと短時間で数値が高くなる。毎試合毎に測定する。また、測定器具はデジタル計を使用し、精度が確保された状態で使用することが望ましい。

試合開始前に、競技委員会委員長、マッチバイザー、審判員によって基準に沿って、適正な空気圧を決定する。

空気圧を制定したのは、ボールは外周が定められているので、一定の空気圧のもとで製造することが求められているからである。その外周を保つための最適、もしくは基準のための空気圧であるから、状況に合わせた空気圧とするために基準とした。」

以上